

スタッフから指導を受け、木材を切る児童



【阿蘇地域木材需要拡大対策協議会】

県阿蘇地域振興局、管内市町村、森林・林業関係団体で構成された団体。県産木材の需要拡大を図る活動に取り組んでいる。

児童は「まっすぐ切るのは難しかったけど楽しくできた。両親にプレゼントしたい」と出来栄えに満足したようでした。

木の良さや木材の利用について理解を深めてもらうと1月31日、坂梨小学校で森林・木工教室（阿蘇地域木材需要拡大対策協議会主催）が開かれました。参加した6年生の児童は、『森林からのおくりもの』と題した紙芝居が行われ、その後、スギの間伐材を使用した本立ての製作に挑戦。同協議会のスタッフの指導のもと、慣れない手つきでノコギリや金づちを使い横40センチ、高さ20センチほどの本立てを完成させました。

「お気に入りの本立てができたよ！」  
坂梨小で森林・木工教室

入院患者を火災から守れ！  
阿蘇温泉病院で夜間火災避難訓練



夜間の火災を想定した避難訓練が1月22日、阿蘇温泉病院で行われ、職員や地元消防団など約100人が参加しました。夜間の大規模な避難訓練は県内では初めての。訓練は、病棟2階からの出火を想定。職員が初期消火、通報のあと消防

団と協力し、入院患者役40人を屋外に避難させるとともに、避難経路や職員間の連携を確認しました。訓練を総括した阿蘇中部消防署が「初動体制は良くできていた。火災原因を少しでもなくすよう予防に努めてもらいたい」と講評しました。

同病院では有事に備えようと昨年6月に火災マニユアルを作成。小嶋一誠副理事長は「火災マニユアルが『絵に描いた餅』にならないよう、今回の訓練を生かし予防消防に努めたい」と話していました。

毛布を利用し、患者役の職員を避難させるようす



市公民館役犬原分館  
女性部の皆さん

また、手作りの郷土料理3品を試食しながら、参加者間の交流も深めました。

市公民館役犬原分館女性部（本田光子代表）が2月8日、役犬原地区を訪れる人たちをもてなそうと、ペットボトルを利用した風車を制作、湧水地などに飾り付けました。

この日は、参加した30人が同公民館文化部の渡辺兼安代表の指導で作業。色鮮やかな風車130個を完成させました。

**来訪者を風車で“おもてなし”**  
役犬原公民館女性部が手づくり

**遊 び に お い で よ**

ファミリーパークあそび場に、虹色のカラフルな草泊まりが完成！子どもが草泊まりの中で遊ぶよう、広い空間に生まれ変わりました。みんな遊びに来てね！



**全国大会出場おめでとう！**

第27回都道府県対抗ジュニア  
バスケットボール大会 2014  
(3月28日～30日)

田口 一靖さん (阿蘇中2年出身)

第19回全国私立高等学校男女  
バレーボール選手権大会  
(4月1日～4日)

荒木 健太郎さん (開新高1年、阿蘇中出身)

**「有事の際に役立てて」**

日本損害保険協会が軽消防自動車を寄贈



日本損害保険協会は2月18日、小型動力ポンプ付き軽消防自動車1台を阿蘇市に寄贈しました。同協会は、社会貢献事業の一つとして、地域に

おける消防力の強化・拡充に貢献しようと消防自動車の寄贈事業を全国に展開。阿蘇市への寄贈は今回が初めてです。市役所で行われた寄贈式で、同協会九州支部の井瀧芳幸事務局長は、「災害時にこの車両の力をいかなく発揮し、市民の皆さんの生命と財産を守ってほしい」とあいさつ。寄贈された消防車は、阿蘇市消防団（道尻）に配備し、消火活動はもとより、道幅の狭い住宅地などでの避難誘導、救助活動にも役立てられます。

**健康で明るい未来永い在宅生活を支援します。**

**循環器内科**

高血圧・心不全・不整脈・糖尿病・狭心症・腎臓病等が主な対象です。

**人工透析**

午前、午後、夜間および入院透析

**在宅療養支援診療所**

- ・癌患者を含む在宅患者の訪問診療／訪問看護の24時間支援・訪問リハビリ
- ・入院機能を生かした在宅支援をします。



医療法人 坂梨ハート会

**さかなしハートクリニック**

小里249番地の2  
TEL 24-6262

広告

# 人権作文

家族や身近な人との関係を見つめ直し、  
人権や差別について話し合う機会を持ちましょう。

大雨がふった日

波野小学校 4年 古庄 留萌

七月十二日の夜、ザーザーというすごい雨の音が目がさめました。ピカーンと外がすくすく光っていました。

ゴロゴロと雷の大きな音がしていました。わたしは、ふとんの中でまるくなってお父さんのうでにしがみつきました。お父さんが、「雨やまんねえ。これ、やばいんじゃない。」

と言っていました。ピンポンパンポーンと防災無線がなりました。

「ほりの水があふれました。消防団の人は、出動してください。」

と聞こえてきました。お母さんは、「いかんぼうがいいんじゃない。」

と心配して言ったけど、お父さんは、

「行ったほうが、いいんじゃない。」

と言って、ふとんから出てお父さんの部屋で着がえて外に出ていきました。

しばらくして、お父さんから電話がありました、

「ひなんするじゅんびせえ。」とお母さんに言っていました。

だから、ジャンパーをおつたり、食べ物やシユラフを用意したり

しました。ひなんしたところで、みんなで遊ぶためにブロックやトランプも用意しました。じゅんびしていると、まどの外に赤い光が見えまし

た。カーテンをあけると消防団の車が見えました。消防車からお父さん

が下りて、走って家の中に入ってきた。

ました。そして、

「まだ、ひなんしてへんのか。今、出なかつたらこの団地から出られんようになるで。」

と言って、消防団の車に乗ってまたどこかへ行きました。

わたしは急いで、お母さん、お姉ちゃん、はるひこ、かえで、てるひ

こといっしょに家を出ました。かばんとジャンパーを持ってげんかんを出て、車に行こうとげんかんの外の

段をおりました。すると、急に足が動かなくなりました。足がひざまで

水につかってしまったからです。弟のはるひこが、お母さんにだっこさ

れて車に乗ろうとしていたとき、

「母ちゃん、くつが、くつが。」と言いました。はるひこのくつが水

に流されていきました。はるひこがそのくつを取りに行こうとしたので、

わたしは、

「やめたほうがいい。」

と言ってやめさせました。

「はるひこ、早く行って。」

と言って、むりやりはるひこを車にのせました。そして、わたしが、は

るひこのくつを取りに行つて、車に乗りました。車に乗ったとき、みん

なびしょぬれになっていました。

車の中で、みんなが

「さむい。」

ゆっくり運転しました。車の外は、

まだ雷が光っていました。住たくから出るためには、水なし川にかかる

車一台分のはばの橋を通らなければなりません。その橋をおとるとき、

「はやくにげて。」

という人の声や、ププーという車の音や、雨の音、雷の音、水なし川

を流れる水の音など、たくさん音が聞こえてきました。水なし川を見

ると、いつもは川の水がないのに、橋の上まで川の水がきていて、ガ

ドレールしか見えませんでした。お母さんは、橋をわたるとき少し車の

スピードをあげました。

わたしたちは、まず福寿荘にひなんしました。だけど、そこにも

水があぶなくなってきたので、小学校にひなんしました。

小学校の体育館にひなんしたあと、お父さんが、体育館のげんかん

にもどつてきました。

「あつ。父ちゃんだ。」

と言いました。お父さんは、

「あぶない。あぶない。さむい。さむい。」

と言いながらげんかんに立っています。その周りに人が集まっています。その時、お父さんは命がけで

もどってきたんだなと思いました。

お父さんの体が少しふるえていたからです。

たのを、線路の反対側から見ていた人は、やられたと思ったそうです。

なぜお父さんが人を起こしに行つたのかというと、人の命があぶな

かったからです。お父さんがしたかったのは、人の命を守ること

です。

わたしは、七月十二日の水害で床上しん水して家に住めなくなり、老

人コミュニティセンターに住んでいました。お父さんに助けられた人

がなすびを持ってきてくれました。その人は、ニコニコしながら、

「あの時は、本当にありがとうね。おかげで生きていられたよ。」と話していました。

## 《先生からのコメント》

「雨が降るとドキドキする。」と話していた留萌さんです。自分の不安な気持ちを養護の先生や友達に話しながら、自分の中よく見えない不安を少しずつ見つけていきました。授業の中でも、水害のこと、お父さんのことを話してくれました。その中で、「災害が起き、生活するための便利さを奪われたが、そのおかげで日常の中で見えなかった人と人とのつながりが見えてきた。」ということを伝えてくれました。地域にある人とのつながりを感じている留萌さんです。